林木遺伝子銀行110番 －令和７年度の取組－

1. 林木遺伝子銀行110番について

全国には、天然記念物や巨樹・名木、地域のシンボルツリーとして親しまれている樹木が数多く存在します。これらの樹木は貴重な林木遺伝資源である一方、老齢化や病虫被害などにより衰弱・枯死の危険にさらされているものも少なくありません。林木育種センターでは、所有者等からの要請を受けて後継樹をクローン増殖し、遺伝資源として保存するとともに、現地へ里帰りさせる「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。令和 7 年度末までに全国 352 件の要請を受け、278 件の後継樹の里帰りを行うなど、貴重な林木遺伝資源の保全と地域文化の継承に取り組んできました。本稿では、令和 7 年度に実施した後継樹の里帰りの取組について紹介します。

2.「鎌倉市極楽寺の御車返」

サクラの品種には、一枝の中に八重咲きと一重咲きの花が混在して咲く珍しいものがあり、「御車返（ミクルマガエシ）」として知られています。鎌倉市極楽寺にある「御車返」（写真 1）は、北条時宗公のお手植えと伝えられており、現在の樹木は古株から発生したものです。推定樹齢約 150 年の名木として、長年にわたり地域の方々に親しまれてきました。この「御車返」は鎌倉市内では極楽寺のみに現存する貴重な個体であり、将来にわたってその遺伝資源を継承したいとのご住職の思いから、平成 28 年に極楽寺自栄会から後継樹の増殖について要請を受けました。



写真１　極楽寺の御車返サクラ

これを受け、当センターではつぎ木による増殖を実施し、４本の後継樹の育成に成功しました。そのうち２本は、令和７年４月 10 日に極楽寺へ里帰りし（写真 2）、新たな世代を担う後継樹として植栽される予定です。残る２本については、遺伝資源として当センターで保存しています（写真 3）。

3. おわりに

林木遺伝子銀行 110 番は、貴重な林木遺伝資源を保存するとともに、地域の歴史や文化、人々の思いを次世代へと引き継ぐ取組でもあります。今後も多様な樹木の増殖技術の向上に努め、後継樹の育成と遺伝資源の保全を通じて、地域社会に貢献していきます。

（遺伝資源部　探索収集課
小長谷　賢一・弓野　奨）



写真２　後継樹の里帰り



写真３ 保存木の植栽（令和７年５月）